



さくら会・会報

ご挨拶

植草学園さくら会会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

平成23年3月11日に東北・関東地方に大地震が発生し、9月には、台風12号の影響で、信じられない被害が日本中を襲いました。会員の皆様の中には、何らかの被害にあられた方もおられるかと存じます。心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈りいたします。

植草学園さくら会も事務局と連絡をとり微力ではありますが、被災学生への義援金20万円と、合同企画「大抽選会」の売上金6万2千円(植草学園大学、植草学園短期大学緑栄祭で実施)を、植草学園教育研究振興資金に寄付致し、役立てていただきましたのでご報告申し上げます。

植草学園は、平成20年度の植草学園大学の開学に伴い、学園の拠点を小倉キャンパスに移しました。新設大学

植草学園さくら会 会長 小林鶴枝

も4年が過ぎ、第1期卒業生が巣立ちます。植草学園さくら会に、植草学園大学同窓会が加入してくださることになり、大変喜ばしく思います。

さて、新たに植草学園さくら会会員になられる植草学園大学附属高等学校、植草学園短期大学、植草学園大学の卒業生の皆様、ご卒業誠におめでとうございます。今後は、同窓生の交流と親睦、学園との連携強化、そして植草学園の発展のため、一緒に盛り上げていきましょう。

最後に、植草学園大学附属高等学校、植草学園短期大学、植草学園大学と植草学園さくら会の益々の発展を祈念し、会員の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



心の通う小倉キャンパス

開学から4年目、完成年度を迎えたばかりの新しい大学——植草学園大学です。

開学の折、千葉市から、建築賞をいただきました。美観と耐震性が認められたものと思います。

障害や困難性のある人も、ない人も、共に生きる社会の実現を理念に掲げ、確かな歩を始めています。

本学は、教育・保育、保健医療の各分野において、有為な人材の養成をめざしています。

本学は、德育を教育の根幹とする、心の教育を大切にしています。知育をHeadの教育、体育はHealthの教育、技育はHandの教育とすれば、徳意はHeartの教育。品性を高め、感性を磨く教育です。

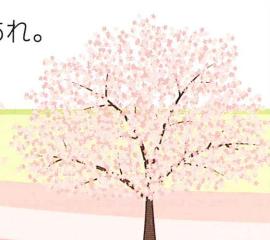
知育、体育、技育の、いずれも重要ですが、とりわけ、心の教育は大切で、Heartの教育こそ「4つのH」の根幹をなすもの、と考えます。

植草学園大学 学長 小出進

豊かな心を培う心の教育は、人を思う心を大切にします。豊かな人間性に基づく、思いやりの心。感じ合い、分かり合い、支え合う心。心の痛みにも、喜びにも共感し、共に生きる共存の心。その心は、心の通うキャンパスで、効果的にはぐくまれるでしょう。

特別支援学校の卒業生の方からいただいた年賀状です。「植草学園大学の緑栄祭に来てよかったです。学生たちと会話ができたよ。」「みんなと仲よくなりました。」「楽しい、ふれ合いができました。」「植草学園大学は、いい大学だと思います。」心の通うキャンパスづくりに、心がけたいものです。

第1期卒業生の皆さんへの前途に幸あれ。



植草学園短期大学

会長挨拶

植草学園短期大学同窓会 会長 金久保利一



植草学園短期大学同窓会会員の皆様、会長を拝命しております9期生の金久保利一です。緑栄祭初日に行われた本年度のさくら会合同企画は残念ながら天候に恵まれず、体育館での開催となりましたが、役員の熱意ある取り組みのおかげで成功を収めることができました。役員の皆様、担当の先生方、本当に有難うございました。また、短大同窓会では卒業生が気軽にキャンパスを訪れ、活用してもらいたいと思い、日頃の悩みや思い、疑問等を打ち明けられる場として、本年も職場を語る会(ミニ・ホームカミングデー)を開催いたしました。短大同窓会では今後も同窓生の「生の声」を聴き、同窓生のためになる活動を続けていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

平成23年度 職場を語る会(12月3日) 「卒業生職員が語る!! ～就業力につながる成功と失敗～」

特別支援では石川弘幸先生より、現在勤務されている特別支援学校での「日々の取り組み」や「子どもへの指導や支援」についてなど、パワーポイント等を使用しながら、講話をいただきました。



職場を語る会が開催され、在校生50名、教職員5名と多くの方が参加して下さり、今回は「特別支援・保育・介護」の現場で勤務している卒業生3名を講師としてお招きました。

保育では田中あづさ先生より、「保育の場における環境の意味するもの」について、ご自身のご経験や勤務されている保育園での環境について、スライド写真を交えて、講話をいただきました。



介護では今井薰先生より、「利用者の方に寄り添って生活する大切さ」について、講話をいただきました。「認知症高齢者への対応とチームケア」、「介護福祉士としての大切さ」について、現場でのご経験を交えて、講話をいただきました。



3名の講話終了後には、各業種のブースに分かれ、美味しいケーキや温かい紅茶を飲みながら、さらに詳しいお話を聞く時間をとり、採用試験や進路のお話等を聞くことができました。



参加された学生からの声をご紹介します！

「現場で仕事をされている卒業生から、現場での具体的な取り組みのお話が聞けて、とても勉強になりました。」

「様々な業種で働いているらしさや卒業生のお話が聞けて、とても有意義な時間を過ごすことができました。」「今後の進路について、とても参考になりました。また参加したいです！」等、多くのご感想をいただきました。

学生生活のなかで、進路についてたくさん悩むことがあると思います。今後も「職場を語る会」を通して、少しでもお役に立てるように同窓会役員一同、後輩たちのために尽力していきたいと思います。次回のご参加を心からお待ちしております。



同窓会会報に寄せて

植草学園短期大学 学長 中坪晃一



短大開設13年目。卒業生を送り出すこと11回。短大同窓会の会員は、今年12回目の卒業生を迎えると、2,000名を超えます。同窓会活動も、「植草学園さくら会」の発足もあり、年々活発化しつつあります。

同窓会の皆さんには、緑栄祭はもとより、在学生も対象の「職場を語る会」や、「オープンキャンパス」での高校生への相談活動等、様々な面でお力添え・ご協力をいただいております。大変嬉しく、心強く思っております。今年度は、東日本大震災・原発事故

等で罹災した学生支援のため、多額のご寄付もいただきました。全学を代表して感謝申し上げます。

会員の皆さん方が、折々に顔を出してくださいと、学園全体が元気になります。2月25日には、短大同窓会発足10周年記念講演会を終えました。「心のよりどころ」としての同窓会のさらなる充実・発展を期待しております。共々がんばりましょう。

第11回 同窓会総会について

5/28

例年短大同窓会総会は11月の緑栄祭の日に合わせて行っていたのですが、会を運営していく上で11月では遅いのではないかという考え方、本年より5月に行いました。本年度は新学長中坪先生ならびに、前学長の植草範子先生にご出席を頂き、お話をしていただくことができました。お忙しいなか、参加して下さった方々に心より御礼申し上げます。



オープンキャンパス～相談コーナー～

8/8

来校された方々は、授業の内容や先生方との関わり、実習、サークル活動、一人暮らし等について、多くの質問を考えて参加され、とても熱心な気持ちが伝わってきました。また、私たち卒業生が実際に経験してきた実習先での事例や短大での授業の内容を話すと、興味深く聞いて下さり、更に質問があがりました。今後も入学を考えて下さっている方々のお話を親身に聞きながら、学ぶ環境の魅力を伝えていき、お役に立てるよう頑張っていきます。

平成23年度 緑栄祭～さくら会合同企画～

11/19・20

今年度の緑栄祭、初日はあいにくの雨と強風にも関わらず、多くのお客様にお越しいただき、19日にはさくら会の合同企画で体育館にて大抽選会を行いました。高校生チアリーディングの皆様の華麗なダンスから始まり、昨年以上に大いに盛り上がり、今年も昨年と同様、売上金は植草学園に全額寄付致しました。この場を借りてご協力いただきました皆さんにお礼を申し上げます。来年はさらに良い企画を考えています。



大抽選会の様子

卒業生の活躍をご紹介 ～子育て支援「みんなで遊ぼう！」に参加して～



卒業生の活躍をご紹介

～子育て支援「みんなで遊ぼう！」に参加して～

地域介護福祉専攻 第2回卒業生 今井薰
相談支援センターの子どもルームには、木のおもちゃや絵本、ミニカー、トランポリン、滑り台など、素敵な遊具がたくさんあります。6月から9月の毎週火曜日、1~3歳の子どもたちとママたちと一緒に遊びました。初めて来た子もママの傍で安心して、それぞれ気に入ったおもちゃで、自由に遊びます。ちょっと珍しいものもあり、みんな興味津々で夢中になり、あつという間に時間が経ちます。毎回、15~20組ぐらいの方々が参加されます。夏休みは兄弟参加の日もったり、プール遊びもったりしました。みんなともだち作りが上手です。子ども達もママ達もすぐに仲良しになります。私は孫のように可愛い子どもたちに引つ張られながら、また娘のようなママ達の相談に乗ったり、お話ししたりして、皆さんの笑顔と会えるのを楽しみに参加していました。

文部科学省より選定！

平成23年度 大学生の就業力育成支援事業 就業力GP「専門性をコアとした就業継続力の育成」



今年度のスローガンは「発展」です。第1号より更に良いものを同窓会の会員の皆様にお届けしようと同窓会役員一同、今まで制作を続けて参りました。同窓会役員として、卒業生とどのようなことが出来るのか、役員会で話し合いながら、今年度も行ってきました。同窓会としてまだ発展途中ではございますが、今後も同窓会での活動を通して、皆様のお役にたてるよう尽力してまいります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

植草学園さくら会会報編集委員長 石川弘幸 編集委員 今井薰

短大同窓会発足10周年記念講演会

2/25

NHK教育テレビ「つくってあそぼ」で出演されているワクワクさんこと久保田雅人さんに、ご講演をいただきました。



植草学園大学附属高等学校

会長挨拶

植草学園大学附属高等学校同窓会 会長 信田一美



植草学園の卒業生が一体となった「さくら会会報」も、こうして第2号の発行を迎えることができてうれしく思います。

私も高校を卒業してから30年、48歳になりました。同じ高校を卒業した二人の娘たちも社会人となり、やっと自分の時間が持てるようになりました。今は全国巡りを目指し、仕事をしながら旅を楽しんでいます。

毎年恒例の高校の同窓会もレクリエーションなど盛り上がり、高校時代を懐かしみながら久しぶりの女子校時代に戻り、ひとときの楽しい時間を過ごしました。次回は是非お子さんも連れて一緒に参加しませんか？

在校生の皆さんも一生懸命学園を良くするために、学業や部活動などに力を入れてくれています。

今年も大学祭に「さくら会」として参加できうれしかったです。これからもみなさんと共に植草学園「さくら会」を盛り上げて、私たちの卒業した学校の一助となっていきましょう。

第11回 同窓会総会について

平成23年10月8日土曜日に行われた[麗峰祭]2日目に第30回同窓会総会が開催されました。昨年からの試みとして、10回ごとの卒業生の同窓会(今回は2回、12回、22回卒業生)を催しておりますが、特に2回卒業生のみなさんが多く集まってきたらしく、思い出話に華を咲かせてもらいました。また信田会長のアイディアによるレクリエーションは、みなさん女子高校生に戻ったようにしゃいでいて、高校時代の友人はたとえ会えない期間が長くても、会った瞬間に違和感なく高校時代と同じように楽しめるものだと改めて実感しました。今年は3回、13回、23回卒業生皆さんのがぜひお誘い合わせのうえお出でください。スタッフ一同心からお待ち申し上げております。



卒業生母校訪問



平成20年度卒業
平山あゆみさん

2011 読売巨人軍
Team Venus の
一員として活躍し
ていました。



平成17年度卒業
長谷川麻美さん

TOP TOUR千葉
支店で営業を担
当しています。母
校の修学旅行で
添乗するのが夢
だそうです。

同窓生推薦

植草学園大学附属 高等学校入試について

本学園は建学の精神をよく御理解くださっている本学園(大学、短大、専門学校含む)同窓生の妹、子女、姪等優先的に受け入れていく推薦制度です。詳しくはお問い合わせ下さい。



*卒業生のみなさん、母校訪問の際にはさくら会報担当の[竹村]に一声お声がけくださいね！

植草学園附属高校 新校長先生挨拶

植草学園大学附属高等学校 新校長 植草 完



本年度4月より第3代校長として任命されました。同窓生の皆様にはご挨拶が遅れてしましましたことをお詫び申し上げます。

この機会に本校の開校以来30年あまりを振り返ってみたいと思います。本校は文化女子高等学校として昭和54年(1979年)4月に開校し、本年33年目を迎えています。開校時の「文化女子」の名称は、初代校長の植草さう先生が、服飾教育でお世話になっていた東京の文化学園理事長・文化女子大学学長の大沼淳先生よりいただいた校名といたしました。6年後の昭和60年に学園名をつけて「植草学園文化女子高等学校」としました。この年に体育コースが設置され小倉町に校舎とグラウンドが完成しました。昭和59年にスタートした英語コースは、平成2年に英語科となりました。中学校から、「英語の植草」と評価される原動力となっています。英語検定においても、準1級合格者を輩出し、航空会社などで活躍している卒業生も多くいます。また、開校以来国際理解教育に力を入れ、実際に異文化体験をさせたいと強く決意していた植草昭副校長(当時、昭和63年に第2代校長に就任、現理事長)により、昭和60年からの韓国修学旅行、平成2年からの台湾修学旅行、平成11年からの米国西海岸への修学旅行と充実してきました。この海外修学旅行は、現地の高校との学校交流をメインプログラムとし、生徒はバディ(現地校生徒)とともに授業やスポーツ・文化活動など様々な活動を体験します。また、交歓会では、両校とも様々なパフォーマンスを披露し合い、お互いの理解を深めます。本校のコアカリキュラムともいえる重要な行事となっており、毎年、生徒の自慢したいことのNo.1にあげられます。

また、進路指導の徹底をはかるため、特に上級学校への進学を希望する生徒の目標達成を強く支援するために、進学クラス

や特進クラスが編成されていましたが、より強化するために、7時間目授業の実施などカリキュラムを抜本的に見直して、平成9年には特進コースが設置されました。近年は、毎年複数名が国立大学に合格するなど成果が現れてきています。平成25年からの新教育課程実施に合わせ、さらに充実した指導を目指していますので、なお一層の良い成果が期待されます。

平成11年度の植草学園短期大学(福祉学科)開学から高大連携教育として福祉分野を取り上げましたが、平成20年度の植草学園大学(発達教育学部・保健医療学部)開学を機に、平成21年度から校名も「植草学園大学附属高等学校」に変え、さらに分野を教育・保健医療・保育・福祉に広げた高大連携教育を、本年度からタイアップクラスの名称とともにスタートしました。このタイアップクラスと高大連携教育につきまして、入試説明会などで多くの関心が寄せられています。

大きく変貌を遂げた母校の姿を、是非ホームページでご覧いただきたく存じます。また、お近くにおいで際は、お気軽に立ち寄りください、ご自分の目でご理解いただければ幸いです。

同窓会としては、30周年の時に、卒業後10年ごとの同窓会を企画し、麗峰祭の時に開催される同窓会総会の後に、第1回生、第11回生、第21回生の合同同窓会を開催いたしました。平成24年度は第3回生(昭和59年3月卒)、第13回生(平成6年3月卒)、第23回生(平成16年3月卒)となっています。麗峰祭(10/20)に、お誘い合わせの上、お越しください。皆様にお目にかかる教職員一同楽しみにお待ちしています。

ほぼ毎回団長として修学旅行に引率しておられる新校長完先生は、そのときのエピソードを卒業生に暴露されてしまうくらい生徒に慕われています！

植草学園大学[緑栄祭]にて

11月19日の[緑栄祭]ではさくら会のイベントとして大抽選会が行われました。そこに華を添えたのが本校バトンタッティング部のみなさんです。抽選の前にダンスを披露し、抽選のときは番号と一緒に言ってくれました。本校自慢の美人揃いです！



第2号が発行できてとてもうれしく思います。3月の地震では卒業生のみなさまにおかげましても被害に遭われたかいらっしゃると思います。お見舞い申し上げます。このような時やはり大切なのは人の絆。さくら会は同窓生とのみなさまとの絆を深めていくそんな組織でありたいと願っています。

植草学園さくら会会報編集副委員長 木村昌代 編集委員 竹村美紀・岡田眞貴子・姥子紗央里

*卒業生のみなさん、母校訪問の際にはさくら会報担当の[竹村]に一声お声がけくださいね！

植草学園幼稚教育専門学校

会長挨拶

植草幼稚教育専門学校同窓会 会長 小林鶴枝

幼専同窓生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

この度の東北地方太平洋沖地震に伴い深い悲しみと、いまだ大きな不安の中にいる皆様に、心からお見舞い申し上げます。そして、甚大な被害が報告された地域の会員の皆様のご無事と健康維持、一日も早い復興を祈念しております。

さて、私は、平成22年度～平成23年度の2年間、幼専同窓会の会長をさせていただきました。この2年間は、学校が閉校し寂しさでいっぱいの中、『植草学園さくら会(連合同窓会)』が立ち上がり、同窓会組織がめまぐるしく変化した時期でもありました。学校閉校後も、幼専同窓会が堂々と活動を続けていらっしゃることには、創立35年の歴史と、それぞれの立場で社会を支えておられる同窓生お一人おひとりのお力と、同窓生をいつでも温かく見守ってくださる故植草こう校長先生、植草範子校長先生、支えてくださる特別会員の諸先生方のおかげ様であると思っております。



次年度から会長の石川明子さんと

同窓会の大きな活動として、毎年、開学したばかりの植草学園大学(若葉区小倉町)で、同窓会総会、先生方との懇親会を開催しております。多くの同窓生の方々に「幼専同窓会」をお楽しみいただき、ぜひ、小倉キャンパスの大学祭の様子もご覧いただいて、後輩たちの活躍を肌で感じていただければと願っております。

最後に、植草学園の発展を祈念し、会員の皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

同窓生の窓

28期 仲村美紀さん



『小さなお手伝いから始めよう』

皆さん、こんにちは。28期のみきねえです。今も千葉市の幼稚園で元気いっぱいに過ごしています。

さて、2011年3月11日に起きた東日本大震災、実際に被害に遭われた方もいらっしゃるかもしれません。心よりお見舞い申し上げます。

私は「どうにか子どもたちだけでも」と思っていた時、TVで清水国明さんが「被災地の子どもも預かります!」と話をしているのを見て「これだ!!」と思いボランティアに参加をしました。場所は山梨県河口湖町。子どもたちは親元を離れて緊張と不安の表情でした。なかなか眠れない夜は、手を握りながら絵本を何冊も読みました。食事はみんなでワイワイ楽しい話をしながら食べました。そのうちに笑顔が見られ外で走り回り「きゃっ!きゃっ!」と楽しそうな声が響くようになりました。子どもたちには、この震災の悲しい思い出だけで大きくなつてほしくないと思っています。一緒に生活する中で、泣いたり、怒ったり、笑ったり、助け合ったりしながら「一人じゃない!みんなで頑張ろう!」と思ってもらえたたらと思い活動に参加しています。これからも、小さなことから少しずつでもお手伝いできたらと思っています。

23年度 第38回同窓会

11月19日(土)、植草学園大学のkusuku-kusuで総会と懇親会が行われました。

今年はあいにくの雨の中での開催となりましたが、たくさんの先生方と同窓生の皆さんに参加して頂き、会場は晴れ晴れとした温かい雰囲気に包まれました。

また、今年はお子様を連れて参加される方が多く、より賑やかで笑顔溢れる同窓会になりました。



お世話になった先生方と楽しい時間を過ごしました。
11期荻原さんの素敵なお姿に範子先生の笑顔がこぼれます。

お足元の悪い中、参加して頂き本当にありがとうございました。来年も11月の緑栄祭の日に同窓会開催予定です。皆様のご参加お待ちしております!



全員で記念撮影!充実した1日になりました。

旧植草幼稚教育専門学校長 挨拶

植草学園副理事長 植草範子

東日本大震災が未曾有の傷跡を残し、いまだに復興できない様子を日々テレビなどで知り、この地に生活しておられる多くの卒業生の皆さんのが、脳裏から離れません。どうか、お元気でいて下さるよう、そして被害の少しでも軽いことを心から祈り、願っています。

辛いこと、悲しいことがたくさんあるでしょうが、どうぞ立ち直って下さい。そして、全「さくら会」の皆様が、お健やかでありますよう、この小倉の地より、ただただ祈り続けています。



時間が流れいろいろなことが変わって行くなかでも、いつも私たち卒業生を気遣ってくださる範子先生です。東日本大震災が起ってからもより一層、範子先生の思いが強くなつたように感じます。

私たち同窓生の中にもたくさんの東北出身の方がいらっしゃいました。被災地の方々のご無事をお祈りしております。もし、少しでも心やすまる時間が作れるようになつたら同窓会にご参加いただいたり、範子校長先生にご一報いただけたりすると幸いです。

公開講座に参加して

33期 渡辺由香さん

早いもので幼専を卒業して6年が経ちました。専門学校はなくなつてしましましたが、今でも仲間たちとお世話になった先生のことや思い出を語り合っては「あの頃は若かった(笑)」と懐かしんでいます。

植草学園大学では大好きな先生方にお会いできる公開講座があります。私は毎年参加しているのですが、先生方を見つけると学生時代に戻り、近況報告、仕事の相談など…。ついおしゃべりが止まなくなってしまいます。また、いろいろな方々と話をすることで“また明日から頑張ろう”という活力をもらえます。早くも夏が待ち遠しいです。



幼専同窓会への寄付のお願い

幼専同窓会は、卒業時に納入していただいた終身会費を元に運営してきましたが、卒業生がいなくなった今、収入源がなくなり貯金を切り崩して活動を行っております。また、平成22年度から幼専単独の活動だけでなく、植草学園さくら会(連合同窓会)の運営費も必要となりました。これから同窓会存続・発展のために、幼専同窓生の皆様に寄付金のご協力ををお願いいたします。

一口：1,000円（何口でも結構です）郵便振替口座にてお振込みください。

口座記入番号：00270-9-140638

加入者名：植草幼稚教育専門学校同窓会

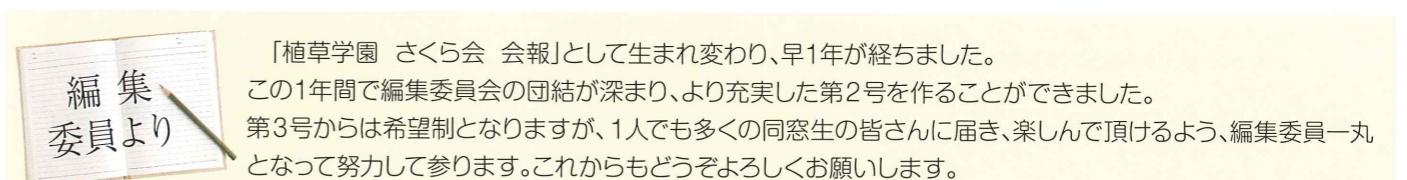
ご依頼人：会員の方の住所、○期、○組、氏名、電話番号をご記入ください。

通信欄：寄付金の口数を明記（例：寄付金3口）してください。

お詫びとお願い

幼専同窓会新聞『桜籠』最終号発送の際、同窓生の皆様に『植草学園さくら会』会報誌第2号からの発送希望の有無をお葉書にてお伺いしましたが、住所記入が不十分だったため、一部の同窓生の方にお知らせをお届けすることができず迷惑をおかけしました。第3号からは希望者のみの発送といたしますので、発送希望の有無を幼専同窓会返信用葉書にて再度お知らせください。

尚、『植草学園さくら会』会報誌は、植草学園ホームページ「メニュー→植草学園さくら会(連合同窓会)→会報」をクリックしていただけるとご覧いただけます。



「植草学園 さくら会 会報」として生まれ変わり、早1年が経ちました。

この1年間で編集委員会の団結が深まり、より充実した第2号を作ることができました。

第3号からは希望制となります。1人でも多くの同窓生の皆さんに届き、楽しんで頂けるよう、編集委員一丸となって努力して参ります。これからもどうぞよろしくお願いします。

植草学園さくら会会報編集副委員長 鈴木香菜 編集委員 石川明子、小笠原晴代、出木麻子

植草文化服装専門学校 岡田泰子

植草文化服装専門学校の卒業生が学生時代の思い出として強く心に残っていると思われるのは、学校祭でのコスチュームショーではないでしょうか。その強い思いと、かつて情熱を傾けた思いを、今号に掲載して見たいと思います。

このコスチュームショーとは、入学して学んだ成果を服飾デザイン科では、ドレスやスーツなど、きもの科では、華やかな振袖を自らの手で縫いあげ、学習の集大成として発表するものです。更に舞台構成やモデルにいたるまで、学生たちのアイディアと力を結集して、まさに自作自演による舞台発表です。



いつかはウエディングドレスや振袖衣装を着てみたいと夢をふくらませて、一針一針作りあげた事と思います。

このようにコスチュームショーは学生一人ひとりの個性をひき出す自己表現の場であり、友人や先輩との交流の場でもあり、皆と力を合わせて作りあげていく喜びが自らを大きく成長させる貴重な学習の場になったこと思います。

「植草学園さくら会会報」をご覧になられた時、かつての植草文化服装専門学校のカリキュラムの一端をご理解いただければ幸いです。



写真は『植草学園100年のあゆみ』より抜粋しました。

植草文化服装専門学校 服飾デザイン科ファッショントレーニングコース 平成6年度卒業 内海直美さん

私は、平成7年3月に服飾デザイン科を卒業しました。学生募集を中止した為に服専最後の卒業生となりました。

学校祭では、毎年行っていたコスチュームショーが出来なくなってしまいましたが、先生方のご厚意により「制作発表会」という形で行うことが出来ました。お客様は先生方と附属幼稚園の園児たち。園児たちが洋服よりも、お姉さんチェックをしていたあの可愛い光景を今でも覚えています。

だんだん卒業間近となり、教室中の荷物の片づけをしている時が一番「もう本当に学校が無くなってしまうのか」と寂

しい気持ちで一杯になりました。

そして最後の卒業式、在校生が居なかつたので、幼専の学生さんたちが、私たちの為に校歌の3番（服専の事を歌っている歌詞）を覚えて歌ってくれ、温かく送り出してくれました。本当にすばらしい門出となりました。

私にとってあの2年間は、とても素晴らしい仲間・恩師に巡り会え、そして卒業できた事を今でも誇りに思っております。

訂正とお詫び 第1回掲載の崔 賢美さん(韓国からの留学生)は、昭和45年度卒業 崔 京子さんの誤りでした。訂正とお詫びをいたします。

会長挨拶 植草学園大学同窓会 会長 西川嘉人

はじめまして、大学同窓会の会長になりました西川嘉人です。私たちの入学、そして大学ができて4年。時の経つのは早いもので、3月には卒業です。

一期生として多くの思い入れがあるこの植草学園に、卒業してからも同窓会員として関わりを持てるに感謝しながら活動していけたらと思っています。



私たちの活動が、植草学園の益々の発展につながるように励んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

平成23年度 植草学園さくら会の役員

- 顧問 植草学園理事長 植草学園副理事長 植草学園事務局長
植草学園附属高等学校長 植草学園短期大学長
- 会長 小林鶴枝
- 副会長 石川明子 信田一美 金久保利一
- 監事 岡田泰子 出木麻子
- 理事 早川佐知子 齊藤京子 鈴木朱美 小笠原晴代 木村昌代
竹村美紀 岡田眞貴子 渡邊信哉 坂下紀子
- 合同企画委員長 小菅秀美 ● 会報編集委員長 石川弘幸
- 代議員 各校より計17名 ● 事務局 キャリア支援課

植草学園さくら会ホームページ

植草学園大学、植草学園短期大学のホームページメニューから、「植草学園さくら会(連合同窓会)」をクリックし、植草学園同窓会のホームページにお入りください。

URL <http://www.uekusa.ac.jp/>